

イモゾウムシによる被害サツマイモの見つけ方

鹿児島県病害虫防除所

サツマイモの重要害虫イモゾウムシが未発生地域に侵入した場合、発見が遅れるほど発生地域は拡大し、根絶が困難になります。早期発見にご協力をお願いします。

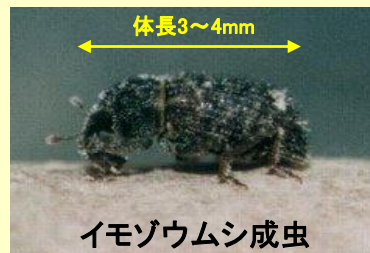
1 イモや茎にこんな穴が見られたら・・・



(左:地表に露出したイモ, 右:株元に近い茎)



直径2mm程度の
明瞭な輪郭の穴
(成虫の脱出孔)
があれば・・・



イモゾウムシ成虫

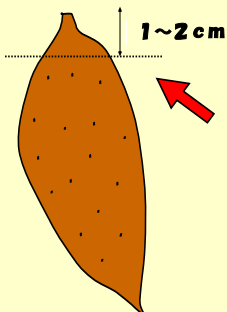
成虫は小さくて目立たないので、見つけるのは難しい

2 サツマイモ・茎の切開方法

サツマイモ・茎の切開を行ってみる

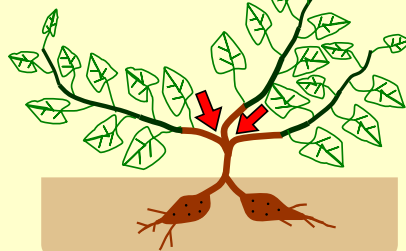
外観では異常が見られなくても、イモや茎を切開して、幼虫の食害痕等の有無を確認する。

● サツマイモの場合



イモのなり口から
1~2cmのところ
を輪切りにする。

● 株元の茎の場合



左図の矢印の部分に
カッターナイフで少し
切れ目を入れて株元
を裂く。

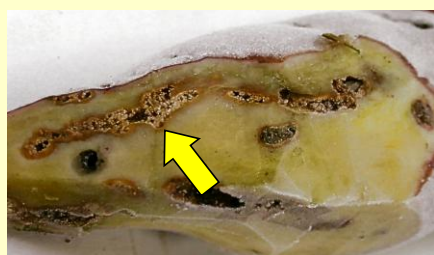


幼虫
蛹



幼虫

このような食害痕や虫が見つければ被害イモ(写真左, 中はイモの断面, 写真右は株元の茎の断面)



食害痕(幼虫が食い進んだトンネル)

●食害痕の中には粉状の糞が詰まっている
(紙などにこすりつけると粉になっているのがわかる)



イモゾウムシ幼虫

●体色は乳白色で、頭は黄褐色
●体をくねらせて動くが、動きはやや鈍い



イモゾウムシ蛹

●体色は乳白色で、軟らかく潰れやすい
●触角と腿節(太ももの部分)を下方に向けてたむ
(アリモドキゾウムシは上方に向けてたむ)

3 他の虫によるイモの被害と見分け方のポイント

●ワタミヒゲナガゾウムシによる被害イモ



被害イモ(生イモよりも、乾燥イモや腐敗イモに発生する)



成虫(左), 幼虫(右上)

幼虫は体長約4.5mmで、曲玉型。色は乳白色で活発に体をくねらせ、噛みつき動作をする。一見してイモゾウムシ幼虫に似る(判別には、実体顕微鏡で下唇部を観察する)。

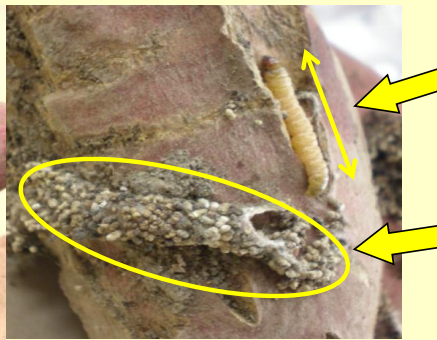
成虫は体長約3.5mmで、褐色～灰褐色。活発に動き回り、非常によく飛翔する。色や大きさはイモゾウムシに似るが、触角が長く、口が象の鼻のような形になっていない。

乾燥イモや腐敗イモに成虫が産卵し、ふ化した幼虫がイモの中で発育、蛹化し、成虫となって脱出する。

●ミドリツヅリガによる被害イモ



収穫したイモや、ほ場で地表に露出したイモが被害を受けやすい。



幼虫は背中がやや紫がかった色で体長は1～3cm。這い回るように活発に動く。

〔イモゾウムシ幼虫の体長は最大で5～6mm〕

糸につづられた虫糞がある。

〔イモゾウムシやアリモドキゾウムシは糸でつづらない〕

●サツマイモの腐敗部分に食入したハエ類のウジ等



穴の部分を切開してみると...

幼虫は透明な白色で、体長は3～10mm程度。泳ぐように活発に動く。

イモゾウムシの幼虫より細長く、体表はツルツル。

頭部器官が退化しているため、頭がないように見える。

食入したトンネル内に糞を詰めない。イモの内部やトンネルの壁面がドロドロに溶けている。

自宅や畑で、イモゾウムシまたは被害サツマイモを見つけたら、至急、下記までご連絡ください。



【問い合わせ・連絡先】

- ・鹿児島県病害虫防除所 ☎(直通)099-245-1157
- ・鹿児島県農政部 経営技術課 ☎(直通)099-286-3155